

固定資金について

資金別貸借対照表にある「固定資金の部」は、多少の違いはありますが大まかに以下のように構成されています。

今回はこの固定資金について解説します。

現金預金

〔固定資金の部〕

棚卸資産		長期借入金	
固定資産		預り保証金	
有形固定資産		社債	
無形固定資産		小計	
投資その他の資産		資本金	
繰延資産		資本準備金	
		小計	
運用額計		調達額計	

まずは各勘定科目について説明します。

① 棚卸資産

常時ある棚卸資産は資金的に固定していると考えます。

したがって、固定資産の運用としました。

② 長期借入金

1年以内に返済予定の長期借入金も固定資金の調達である長期借入金にしました。返済期限が1年以内になっても長期借入金に変わりはありません。

③ 社債

固定的且つ長期的な資金の調達運用状況を表しています。

次に、固定資金の特質特徴その他について説明します。

- 固定的長期的な資金の調達運用状況を表しています。
- 必ず過不足額が出ます。原則として、その過不足額を良し悪しとは判断しません。まず、財務の特徴と理解します。
- 不足の場合は、不足原因とその不足がどの資金で補填されているかを知る必要があります。
- 過の場合は、過が必要であるかどうかを判断し、その過がどのように運用されているかを知る必要があります。

つまり、どの資金で資金バランスを取っているかが重要です。

固定資金の運用額は、事業に必要な最低限の運用に留める必要があります。事業に本当に必要かを考え、能動的財務体質¹にならないようにしなければなりません。

固定資金の調達については、自身で運用せずとも借りることで同じ効果を得られます。例えば、自社で本社ビルを建てるのも賃貸で借りるのも本質は同じです。

但し、借り入れによる調達の不足と借入金の返済過多には注意しましょう。長期借入金で資金を安定させることが必要です。

固定資金に係る運用調達一つの選択で、経営に与える影響は大きく違います。行動に移す前に現状を把握し、今の会社に何が必要なのかをよくご検討下さい。

¹ 能動的財務体質…経営者の性格や癖で形成される財務体質のこと
⇔受動的財務体質…業種業態で形成される財務体質のこと